

# みんなで見つける、地域の物語

## ～オランダの事例に学ぶ 演劇フィールドワークと地域力創造～

オランダから、演劇的手法を用いた住民参加型のプログラムを通して地域活性化につながる活動を長年続けてこられた舞台監督／劇作家シュールド・ワーヘナー氏（写真）をうきは市に招聘し、ワークショップを行います。

「住民自らが芸術活動の担い手となることで地域力を創造する」というシュールド氏の活動主旨は、当市の文化遺産に係る取組において、大切なことであると思われます。当市を舞台にヨーロッパの取組を体験し、様々な歴史・文化財を地域のためにどのような活用ができるのか、考えていきませんか。ぜひ、ご参加ください。

**日時： 3月3日(土) 10:00～、 集合場所：道の駅うきは(研修室)**

○参加費：無料（昼食は実費）

○対象者：うきは市の歴史・文化財に興味のある方（先着 30 名）

○プログラム：

- ・事例発表：ヨーロッパの文化財を用いたワークショップ  
(10:00～11:30 道の駅研修室)
- ・フィールドワーク(11:30～12:30 円形劇場跡)
- ・昼食(12:30～13:30、1,200円程度) ・意見交換(13:30～)

○申込先(2月28日締切)：うきはブランド推進課ブランド戦略係 Tel.76-9029



☆☆☆シリーズ「うきはブランド推進隊の活動紹介」☆☆☆ 地域外の人材を招致して地域力を高める「地域おこし協力隊」の制度。「うきはブランド推進隊」として、現在9人がミッションに取り組んでいます。

うきはレインボーファーム推進プランナー  
久我 将己

昨年十月から、中山間の耕作放棄地を有効活用するため、元々植えてあった柿の木などの伐根から始め、同時にどのような野菜がこの土地で栽培するのに向いているかを確かめるため、試験的に多くの種類の野菜を定植しました。現在はニンニク、カブ、タマネギ、高菜、島ラッキョウ、ソラマメなどがあります。まだ収穫まではできていませんが、これからも野菜だけでなく、カキ、ブドウ、キウイフルーツなどの果樹も定植し、「この場所では、こんな作物が育つ」という事例を作り、うきは市の中山間に移住して農業をやってみたいという人が現れてくれればと思っています。

まだまだ作業を始めればかりで、不安な部分も多く、これらが大変だとは思いますが、行くは誰に見せても恥ずかしくない、自慢できるような野菜や果樹の耕作地にできればと思っています。



うきは暮らしプランナー  
矢倉 誠人

うきはの冬の味覚といえば流川れんこんですね。今年初めて煮物にして食べた時、そのホクホクした食感とうまさに感動しました。うきはにはどの季節にもおいしい旬の食材があって、食いしん坊の私はとても幸せです。

さて、以前この活動紹介でお伝えいたしました私が、私の主な活動は空き家バンクの運営や、うきは市への移住を希望される方の相談対応です。実は、それに加えてもうひとつ重要なミッションがあります。それは、うきはでの暮らしの魅力を発信することです。たくさんの方の魅力があるうきは市ですが、九州を出るとうきはの地名すら知らない方がたくさんいます。そのような方へ、うきはで暮らしななかで、私が気づいた魅力を「うきはのはなし」Facebookページで発信しています。

まだまだ微力ですがこのような情報発信を通じて日本中へうきはのファンを増やしていきたいなと思っています。よろしければご覧ください。



うきはのはなし  
UKIHA NO HANASHI